

自己決定を促す生活科の学習

－複式低学年「学校探検」の実践から－

佐 和 真由美

1 はじめに

探検活動は、子どもたちの大好きな活動のひとつである。今いる所から飛び出してどこかへ行きたい、自分の知らない世界をのぞいてみたい、という子どもたちの気持ちに応えてくれる活動だからであろう。中でも「学校探検」は、入学して大きな小学校に戸惑っている子どもたちが、学校とのかかわりを深めていく最初の大切な探検活動である。

この單元では、子どもたちが「～を見た。」から、「～の音がしてびっくりした。おもしろかった。」とさまざまな感覚を使った活動の楽しさを知ることができる。さらに「～だと思っていたけど、～だった。どうしてだろう。」と普段の生活の場である学校から次々に不思議を発見する楽しさを味わうとともに、学校の施設やそれを利用する人とのかかわりを深めていくこともできるであろう。そこで、春だけで終わらせることなく1年間を通じて学校探検に取り組んでいきたい。また、複式の特徴である異学年のかかわりを生かした探検活動も考えていきたい。

この実践を通して、調べたいことを自分で決めて、自分なりのめあてにそって解決していこうとする子どもの姿を探っていきたい。

2 活動の実際

(1) 活動のねらい

- ① 自分なりのめあてをもって、探検することができる。
- ② 探検して発見したことを自分なりに工夫して表現することができる。

(2) 活動内容と計画

- | | |
|-------------------|----------------|
| 第一次 たん！たん！たんけんだ！！ | ・・・6時間（本時 第3時） |
| 第二次 探検発表会～名探偵○○登場 | ・・・2時間 |

(3) 本單元にかかわる児童の実態

本学級の1年生は、春の学校探検で、いい匂いのする給食室やいろいろな物がある事務室のあることを知った。とにかく自分の知らない学校を探検し、いろいろな場所があったという驚きや喜びが大きく、そこからさらにお話を聞いてみようということはほとんどなかった。主に1階部分を探検したので、他の場所はどうなっているのだろうと、次の探検を楽しみにしている。2年生は、1年生の時に学校探検をしているので、今年の春は自分たちの経験を生かし、1年生が楽しく探検できるようにアドバイスをしながら、学校クイズを作って共に楽しんだ。この時から「もっと聞きたい、触ってみたい。やってみたい。」という気持ちが強くなっている。

(4) 授業設計の焦点

この單元では、学校探検で生まれたその子の？を大切にして探検活動を続けていく。本時は、繰り返される探検活動中のミニミニ発表会の場面である。ここでは、自分なりのめあてをもって探検している中で発見したことや？を発表し、みんなでおたずねやおたすけをしていく。そして、新たに生まれた？を解決するために、次はどのように探検をしていったらよいかをみんなで考え、自分なりに取り入れていくようにしていきたい。子どもたちが名探偵となる頃には、ドキドキわくわくする？の宝箱として、学校といろいろなかかわり方ができるようになればと願っている。

(5) 授業仮説

各自の探検をみんなに伝え合う場を設ければ、次の活動へ自分なりのめあてをもって取り組むことができるであろう。

(6) 本時のねらい

自分なりのめあてをもって探検をしようという意欲をもつことができる。

(7) 評価の観点

関心・意欲・態度	どのように探検しようとしているか。 友達の伝える探検にどのような関心をもっているか。
思考・表現	自分の探検したことや気持ちをどのように相手に伝えようとしているか。
環境や自分への気づき	学校にあるさまざまな施設や人・自然に対してどのように気づいているか。

(8) 活動の展開

学 習 活 動	みとりの視点	教師の働きかけ
1 前時の探検をみんなに伝える準備をする。 ・掲示用地図など	○自分の探検にどのような気持ちをもっているか。	1 自分の探検をみんなに伝えやすいように準備の時間をとる。
(本時の活動) 2 探検していることを伝え合う。 ・発見したこと ・?と思ったこと ・探検の仕方 ・いいところみつけ ・おたずね ・おたすけ 3 名探偵になる方法を考える。 ・名探偵プリント	○これまでの探検をどのように伝えようとしているか。 ○友達の探検や表現について、どのような関心をもったか。 ○自分や友達の探検のよいところをどのように取り入れようとしているか。 ○次の探検への意欲をどのようにもつことができたか。	2 探検途中のミニミニ発表会なので教師も励ましたり質問をしたりしながら子どもが自分の探検をみんなに伝える楽しさを味わえるようにしていく。 ◎一人の探検にできるだけ多くの子どもがかかわるように、言葉かけをしていく。 ・解決できなかった?があれば、地図に残していく。 3 一人一人がより積極的に探検への思いがもてるように、各自の作戦を認め、励ましていく。

(9) 活動の概要と変容

① たん！たん！たんけんだ！！

ア 地図ってなあに

探検の歌を歌いながら、子ども達が元気よく探検に出かけていった。探検中、校内のあちこちで、自分が感じたことや発見したことを地図やメモに書き込んでいく姿が見られた。そして「どこへ行ったの。」「あそこはおもしろいよ。」という情報交換も自然に行われていた。地図は、教室の位置を子どもたちに教えてくれるだけのものではなく、大切な発見をみんなに伝えたいという思いを表すものにもなっているのではないかと考えられる。

イ みんなの地図マーク、誕生

今回・秋の学校探検では自分なりにめあてを絞って探検するようになっていった。同じ部屋でも行く度に新しい発見があるので、限られたマークだけでは表せなくなり「！」が地図に登場した。これをきっかけに、子どもたちは次々に自分の探検に合ったマークを作り、使い始めた。しかし、各自が常掲用地図に書き込む時、自分の好きなマークを使っていては他の人に分からないという声が出た。そこで、どんなマークを使うかを話し合った。



<地図マーク>

おどろき・びっくり	!!
わかったぞ・さぶいたぞ	!
ふしぎだな・なんだろう	??
はっけん	👁️🗨️
しらべてみよう	📄
まえとかわってるぞ	A
いっちゃだめ	⊗

<社会科資料室について>

- ?₁ : 鍵がかかっていて入ることができない。中には何があるのだろう。
- ?₂ : 入ってもいいか聞いて初めて中に入ったら、プラモデルを見つけた。何のためにあるのだろう。
- ! : 何のためにプラモデルがあるか聞いた。社会科で5年生が自動車の作り方を勉強するためにあるんだ。

<図書室>

A : 工事現場で電球が光りみんなに教えてくれている。そして、工事が終わった時には、その場所ともう変わっている。学校も前の探検と変わっているところがある。こうして、探検のめあてがはっきりとしてくるにつれ、マークの種類が増えていった。

② みんなにつたえたい～ミニミニ発表会

ア めあてがはっきり、おたすけ・おたずね

どの子も自分が探検して発見したことをみんなに伝えたくて、てきぱきと常掲用の地図を黒板にはったり、それぞれの探検に使っている地図やメモを準備したりしていた。

A 児の探検のめあて『みんながまだ分からないところを聞いて、見て、最後に大きな声で発表する。』

A 児：私は、図工教材室の奥の棚で、大きなボンドの罐を見つけました。

おたね：それはどんな大きさでしたか。

A 児：バケツぐらいでした。

おたね：（主に2年生が）そんなに大きなボンドがあるかね。手で示してみて。



A児：これぐらいです。(と言うが大きさがはっきりしないので、黒板に書くことにした。)

2年：うわあ。小さい。バケツって言ったからどんなに大きいのかと思った。

1年生のA児にとっては、日頃自分たちが出入りしない教材室に入り、誰も知らないポンドを見つけたことは、大発見である。このことをみんなに教えられるので、とても張り切っていた。ポンドは、他の1年生にとっても大発見である。しかし、ただ自分が驚いたものを見つねるとどまっていたので、2年生が大きさや数を尋ねるとそれに答えることができなかった。

1回目の振り返り「聞くは×、見るは×、大きな声で発表は、○」

「わけは、質問に答えられなかったから。」

今度の作戦 ①「先生がおられなかったら、ちゃんと近くにおられる先生方に聞く。」

(めあて) ②「今度は、ちゃんと①・②・③を使う。」

A児は、次の探検でこのめあてをもって図工室に行った。

イ 自分だけの探検を

探検とミニミニ発表会を繰り返すうちに、自分だけの探検をしたい。人と違うものを見つけないかという思いが出てきた。

B児の振り返り

「人が行っていたらそこに行くので気をつける。」

わけは、人と同じことしか発表できないから。」

今度の作戦

「クイズができるように探検する。」

C児の振り返り

「手を使えなかった。わけは、さわってはいけないものが置いてある部屋しか行かなかったから。」

(自分は他の部屋に行きたかった。)

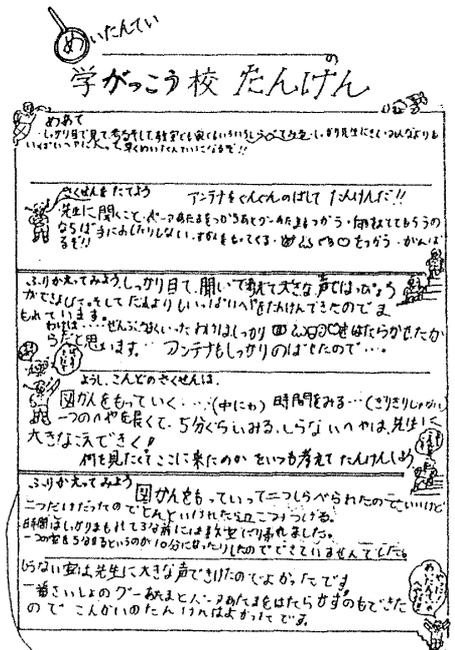
今度の作戦

「一人で探検する。出会った友達と解決する。難しいところはスケッチする。」

この頃から自分一人で、自分のめあてにそって探検する姿が多く見られるようになった。

----- 日記より「めいたんてい？」 -----

今日、学校たんけんをしました。いつもは人といっしょに行ってたけど、今日は一人で行きました。わからないことが、どっさりありました。だから、こんどの時は、それを聞いてみようと思います。一人だと、とてもはかどりました。もう、めいたんていになったかなあ???



ウ いろいろな調べ方で、よりはっきりと

おたずねで、「何個ですか。数は。」が2年生から出され、1年生も次第に意識するようになっていった。そして、探検に行くときの準備物が変わってきた。

増えたもの 図鑑……探検中、すぐにその場で自分で解決できる。

白い紙 (B4サイズ) ……その場で絵、メモ、本に利用できる。

紙テープ……長さや大きさを計ることができる。

減ったもの 鉛筆・クーピー……色や形は書き留めることができる。

どの子も同じ物を準備するのではなく、自分の探検に応じた準備物を考えていった。そして、紙テープや自分の両手幅を使って計ったり、靴で何歩かで計ったりし始めた。

<教室>

1年生：18センチの靴でぐると1周し141歩 みんなにはどのくらいか分からない。

2年生：18×141 ここから答えを求めるために 算数の学習時間となった。 $1 \times 8 = 8, 1 \times 1 = 1 \dots\dots 1 + 2 = 3$ (1年生) $\dots\dots 2538$ センチだから、25メートル38センチすごい。計算できた。の聲が上がった。

<校長室のゴミ箱を計る>

<校長室>

1年生が1本の紙テープで計ったもの

- ・本の厚さ
- ・校長先生の机……縦と横
- ・金庫の横幅 (高さは高く届かない)
- ・入口と印刷室との出入り口
- ・白いボード など



<図書室>

2年生：1日何人が本を借りるでしょう。

(クイズ) ヒント30より多く100より少ない

このクイズからみんなで数の大小を考えることになった。

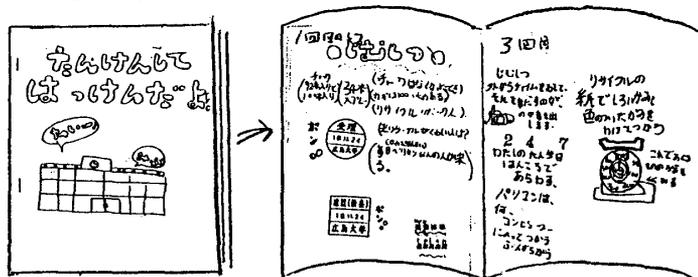
保護者からの手紙 (連絡ノート)

昨日は生活科学学校探検「名探偵の発表」拝見させていただきレベルの高さに驚きました。うちの子は1年生ですが、 $30 < \bigcirc < 100$ の意味も含めて自学自習がみんなとても上手にできていると感心しました。探検することって、いろんな発見!!!があり、日頃教室で学習するのは違って身近に簡単に取り組むことができそうなので、家庭でもいつでもアンテナをはりめぐらせピピピとくるようつなげていきたいものです。

エ いろいろな表現で伝え合う

今回のミニミニ発表会や最後に設けた発表会のための準備時間は、特に取らなかった。発表のためにする探検ではないからである。しかし、自分の探検を伝えたいと思う子ども達は、探検に行く時から発見の本やクイズにしてみんなに知らせようと、発見をしては書きとめ、また探検に行く、というふうに使っていた。こういった表現の工夫はお互いのよい刺激になっていた。

<探検の本>



また、発表の時には、動作で伝える場面が見られた。

B児：これ (付箋) は、どこでもらってきたでしょう。

： (一斉に手が挙がる) 事務室です。

おたね：どうやってもらったんですか。(B児の答えから入室の様子を知り)

おたけ：それでは先生に何のために来たのか分からないから…… (動作付きで教え、自分が事務室の先生になって、二人で探検の時の様子を再現した。)

3 振り返って

本実践を授業仮説「各自の探検をみんなに伝え合う場を設ければ、次の活動へ自分なりのめあてをもって取り組むことができるであろう。」に照らして振り返りたい。

① みんなに伝え合う場～ミニミニ発表会

A児は、2回目の探検のおたずねで出たボンドの数や色について答えられなかった。しかし、いいところみつけで、1回目に分からなかったボンドのことを先生に聞いてきたことがみんなに認められ、次への探検の意欲とめあてをもつことができた。

2回目の振り返り「先生にちゃんと聞いた。見るは、もう少し。鼻は、×」

今度の作戦「今度行く時は、しっかりにおって、もう少しよく見てくる。」

匂いについてのおたずねはなかったのに、A児はそれもめあてに加えている。これは、おたずねに出たことだけを探検してくれる、次に出てくるおたずねに答えられないということに、気づいたからである。探検を繰り返すほど、おたずねは「どこに・大きさは」に「数は・長さは」が加わり、「何のために・それはどうして」とどんどん増えてきた。その度に、自分なりにめあてを絞り同じ場所へ何度も出かけて行ったのである。何回探検しても次々に？が増えてくるので、毎回探検に意欲的に出かけて行った。

② みんなの探検をつなげる場～常掲地図

各自の探検で発見したことを簡単に書き込んだ地図を年間を通して掲示していった。この地図には、春・夏・秋・冬の探検が表されているため、そのときに解決できない？が何か、みんなに分かるようになっている。中庭を例に挙げたい。

春：どうして学校にこんなにたくさんの鯉がいるのか？

夏：鯉はすいすい泳いでいたのに、冬：鯉は池の底に固まってじっとしている？

わけ……上の方が冷たいからだろう。でも、上の方がお日様が当たるのに？

(本で調べて ↓ 2月に解決)

上の方が冷たくて氷が張って、氷のバリアが風をはねかえすので、池の下が温かいから。

しかし、なぜ鯉がたくさんいるのか、今はまだ？のままである。

この地図の？は、それを書き込んだひとりの？ではなく、みんなの？になり「ようし、今度は自分が解決するぞ。」という次の探検のめあてと励みにもなっているのである。

----- たのしかった学校たんけん (1年) -----

まえは、ながいじかんでも、たりないようにたんけんしたけど、いまではまとめてたんけんしているとおもいます。どうしてかという、まえのたんけんは、ごちゃごちゃにたんけんしていたからだとおもいます。クイズの本をきいて、ほくもクイズの本をつくりました。

----- 学校たんけん (2年) -----

ほくは、学校たんけん、いろいろなことをたんけんして、いろいろなことをはっけんしました。とくにじむ室でたくさんはっけんしました。ほくは、「今どこそ、今どこそ。」と思うことがたくさんありました。ほくは、今どまだたんけんしていないへやに行ったり、クッキーがあったとか言うんじゃなく、じむ室の外のベルはどこにどうゆうふうにつながっているのか、それはいつごろからで、なんのために、とかいうことをたんけんしたいです。

各自の探検を伝え合う場が、自分の探検と友だちの探検を絡み合わせ、次の探検への意欲と自分なりのめあてをもつ場になっていると考えられる。これからも活動が絡み合ういろいろな場のあり方を考えていきたい。